

高い志
たゆまぬ向上心

HOSPITAL



NAGAOKA RED CROSS HOSPITAL

臨床研修のご案内 2023



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

初期研修プログラム

研修の特色

ほしい能力が身につく

- 27科の専門科があり、高度の専門医療から幅広くcommon diseaseまで研修が可能です。
- 100名を超す経験豊富な専門医が情熱を持って指導にあたります。
屋根瓦方式の指導体制で、先輩研修医や若い上級医からも多くのことが学べます。
- 2021年度基本的臨床能力評価試験 総合順位376病院中20位
過去最高は総合順位7,699名中329位

進路を見据えた研修ができる

- 自由選択期間が9か月あり、進路を見据えたプログラムを作ることができます。
- 自由選択期間では、新潟大学医歯学総合病院、長岡中央総合病院、立川総合病院、魚沼基幹病院、燕労災病院での研修もできます。（3か月間まで）

救急医療・災害医療での豊富な経験ができる

- 中越地区唯一の救命救急センターでの研修を通して、あらゆる救急患者の初期対応ができるようになることを目指します。
- 災害訓練や研修会を通じて、災害医療の経験・知識が身につきます。
- 新潟県基幹災害拠点病院として災害時には、救護班の一員として積極的に参加できます。
 - ・ 1年次：ICLS研修、JMECC研修、赤十字救護訓練実施
 - ・ 東日本大震災では、15名の研修医が被災地で救護活動に従事

学会発表・プレゼンテーション能力が身につく

- 各科の検討会を通じて高いプレゼンテーション能力が身につきます。
- 学会発表から論文化まで経験豊富な指導医による熱い指導が受けられます。
- 多くの研修医が学会発表で高い評価を受けています。
 - ・ 2017年～2022年 内科学会信越地方若手奨励賞
最優秀賞：4名受賞 優秀賞：4名受賞（2017-2022県内最多受賞）

研修計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	OR (1週間)	内科 (22週間)				神経 (4週間)	救急科 (4週間)	整形外科 (4週間)	病理 (2週間)	産婦人科 (4週間)	小児科 (4週間)	外科 (4週間)

(※研修順序は各自異なります)

2年目	地域医療 (4週間)	精神科 (4週間)	救急科 (4週間)	選択科目 (36週間)								
-----	---------------	--------------	--------------	----------------	--	--	--	--	--	--	--	--

必修科目	内科系	呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、血液内科、腎・膠原病内科を全て4週間ずつローテーション 内分泌・代謝内科を2週間										
	救急/麻酔	当番日は救急科、非当番日は麻酔科を4週間										
	整形外科	4週間										
	神経	神経内科または脳神経外科 (4週間)										
	外科	4週間										
	小児科	4週間										
	産婦人科	4週間										
	病理	2週間 (CPCの発表を経験します)										
	地域医療	(新潟県内) 魚沼市立小出病院 (3週間) 江部医院、草間医院、高木内科クリニック、長尾医院、ほんだファミリークリニック、三上医院のうち、複数の施設で研修を行います (新潟県外) 置戸赤十字病院 (北海道)、伊豆赤十字病院 (静岡県) から選択4週間、飯山赤十字病院 (長野県) 3週間										
	精神科	4週間 (田宮病院または新潟県立精神医療センター)										
選択科目		27科全ての科で研修可能。長岡中央総合病院、立川総合病院、魚沼基幹病院、燕労災病院での研修も可能です。(3か月未満)										

■ 実際のローテーション例

01

呼吸器内科専攻 H研修医

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	OR 呼吸器内科	血液内科	救急科	整形外科	消化器内科	外科	循環器内科	腎・膠原病内科	内分泌代謝 病理	小児科	産婦人科	神経
2年目	呼吸器内科	内分泌・代謝内科	放射線科	地域医療	精神科	神経内科	救急科	腎・膠原病内科	緩和ケア	呼吸器内科		

02		外科専攻 I研修医												
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
1年目	OR	循環器内科	消化器内科	小児科	産婦人科	救急科	整形外科	外科	神経	呼吸器内科	内分泌代謝	病理	腎・膠原病内科	血液内科
2年目	外科	消化器内科	精神科	地域医療	脳外科	泌尿器科	救急科	緩和ケア	耳鼻科	小児外科	放射線科	病理	胸部外科	外科

研修医への系統的な教育

基本的手技を修得し、幅広い知識を得られるような教育セミナーを開催しています。



プライマリケアセミナー

月1回

各科の専門医による講義を受けることができます。テーマは研修医が決め、各科専門医へ講師依頼をします。



内科検討会

週1回

内科の医師全員が集まる検討会に、内科ローテートしている研修医は参加できます。さらに、各専門科からミニレクチャーを受けることができます。



腹腔鏡手術実習

年1回

腹腔鏡手術用シミュレーターを用いて消化器外科の指導医より手厚いレクチャーを受けることができます。



CVCハンズオンセミナー

年2回

エコー対応穿刺シミュレーターを用いた実践的な研修を行います。安全なCVカテ挿入に必要な知識・技術が身につきます。



内視鏡ハンズオンセミナー

年1回

豚切除胃を用いた内視鏡治療のレクチャーと実際の経験ができます。



CPC (臨床病理検討会)

病理解剖が行われた症例の病理所見を提示し、問題点を考察していただきます。



ICLS・JMECC講習会

院内多職種、救命救急士が参加し、定期的に急変時対応を行っています。ICLSインストラクター取得も可能です。



救護訓練

災害医療は赤十字の重要な責務です。実際の災害が起こった際には、研修医も救護班として活動できるよう、訓練に参加します。

緩和ケア研修会

講義・グループワークを通じて、緩和ケアの基本を修得することができます。

熱血指導医によるレクチャー

不定期

情熱を持った熱血指導医による特別レクチャーが不定期で開催されます。経験豊富な指導医から様々な知識を得ることができます。

内科学会信越地方若手奨励賞受賞者

2017年度	最優秀賞	神経内科	吉岡 弘貴	頭部MRI所見から血管内リンパ腫症を疑い、腎生検で診断した1例
2017年度	最優秀賞	呼吸器内科	勇 亜衣子	多臓器転移および急性心筋梗塞を来した大動脈弓内膜肉腫の1例
2018年度	優秀賞	神経内科	内山 純花	免疫チェックポイント阻害剤であるニボルマブ投与後に、高CK血症を伴う重症筋無力症を発症した1例
2019年度	優秀賞	腎臓内科	古山 海斗	蚊刺を契機に急性腎障害を呈したEBウイルス持続感染症例の1例
2021年度	最優秀賞	神経内科	土井 智裕	当初筋萎縮性側索硬化症が疑われたACTH単独欠損症による代謝性ミオパチーの1例
2021年度	優秀賞	腎・膠原病内科	宮島 美佳	重症僧帽弁閉鎖不全症で発症し頸部リンパ節生検が診断に有用であった心臓サルコイドーシスの1例
2022年度	最優秀賞	腎・膠原病内科	佐竹 優紀	紫斑、末梢神経障害、腎障害に加えてクモ膜下出血を合併した好酸球性多発血管炎性肉芽腫症 (EGPA) の1例
2022年度	優秀賞	神経内科	相田 麻依	亜急性自己免疫性脳炎を呈したシェーグレン症候群の1例

地域医療研修

新潟県内だけでなく、全国各地の赤十字病院で地域に根差した医療を経験し、学ぶことができます。
令和4年度より、置戸赤十字病院（北海道）と伊豆赤十字病院（静岡県）が新たに加わりました。



伊豆赤十字病院 外観

伊豆赤十字病院研修記

K 研修医

6月に伊豆赤十字病院で4週間の地域研修をさせていただきました。

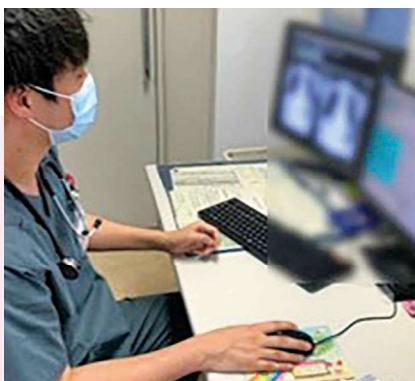
高齢者の多い地域で、病院は一般病床と療養病床等合わせて100床程度、小規模多機能施設が隣接していました。長岡では3次病院で専門性の高い急性期医療に携わっていますが、地域研修では急性期以降の医療について学ぶことのできる良い機会となりました。

患者さんご家族の今後の生活を考えて、ベストな選択は何かを考えることができ、訪問診療や施設診療を行っているため高齢者の多い地域でどんな医療が必要なのか学ぶことができました。

伊豆は緑豊かできれいな川が流れており、快晴の日には富士山がきれいにみえました。近くには温泉街があり日々心身ともに癒されました。先生方とテニスをしたりバーベキューをしたりなど充実した楽しい時間を過ごさせていただきました。



伊豆の風景



研修中の風景

置戸赤十字病院研修記

T 研修医

7月の4週間、当院から第1号として、北海道の置戸赤十字病院で地域医療研修をさせていただきました。置戸日赤は、院長含め常勤医が2名しかおらず、長岡日赤と比べるとはるかに規模は小さいですが、看護師・薬剤師・臨床検査技師・放射線技師・栄養課・事務の方々等々が一致団結して病院全体が回っており、チーム医療というものを改めて感じました。

仕事以外では、平日は無料のスポーツセンターでトレーニング後、温泉施設（300円）でリラックス、病院前の定食屋で一杯飲んでほろ酔い、北見に焼肉に行ったり、係長の家でBBQ（ホタテが絶品）したり。週末は公用車で旭川方面（ラベンダー畑や旭山動物園）、稚内（日本最北端の碑）、帯広方面（豚丼やヒグマ観光）、網走（監獄と流氷）、釧路（炉端焼き）、など感染対策をしながら道内観光をさせていただき、北海道を満喫しました（ただ天気には恵まれず・・・お金も飛びました）。



置戸赤十字病院のみなさんと集合写真

研修の特色

長岡市は救急輪番体制が敷かれ、当番日では1日30件以上(多い日は40件以上)の救急車を受け入れています。当院は1年目に3週間、2年目に5週間の救急科研修を行い、救急搬送患者・walk-inで受診される患者さんの初期診療を担当します。加えて当番日の救急患者の対応も行い、非常に多彩な症例に触れる事が可能です。一方で当番日は3日に1回であり、過度な負担とならない様配慮されています。当直明けは基本的に非番となり、研修医の皆さんのQOLも保たれます。診療は研修医のみではなく常に救急科医師の指導・責任下に行われ、重症患者さんの診療も一緒に行います。

当院には軽症から最重症まで、非常に幅広い層の患者さんが来院します。様々な病態に対応できるよう、勤務中・勤務後に救急科医師によるフィードバックを行い、診療の実践と知識の紐づけを試みています。初期研修で救急外来に必要な知識と技術を身に付けるには最適な病院といえます。また、2022年度から救急科専攻医プログラムを新設し、新潟県の救急医療を支えてくれる仲間を広く募集しています。後期研修医も複数勤務しています。

救急科の医師は研修医が大好きです。研修医が病院の中で最も長く時間を過ごすであろう救命センターで、研修医の皆さんが質問しやすい・働きやすい環境で勤務できるよう、救急科一同努力しています。



指導医からのメッセージ

当院の救急科指導医は若く後期研修医の受け入れも2022年から始まったばかりでまだまだ発展途上初期の診療科です。研修医の皆さんへの教育も年々充実してきているところです。研修医の間は将来進む診療科に関わらず、医療の基礎である救急をしっかり身につけて目の前で苦しんでいる患者さんに最適な初期対応をできるようにしましょう。

ドクターヘリ搭乗記

当院2年目の救急科研修では、ドクターヘリに1日乗ることができます。これはドクターヘリを所有している病院だからこそ経験できることです。私は4月に研修を行い、1日で6回のドクヘリの搭乗を経験できました。

消防からの要請があると、救急科の先生と看護師さんと一緒にヘリポートまで走り、現場に向けて出動します。ランデブーポイントで消防隊と合流、機内の限られた装備のなか診察、治療を行い、病院へ搬送します。春は山に行く人が増え、ドクヘリが近づくことが難しい場所への要請もありました。そのようなときは救急車や消防車に乗って現場に向かいました。

病院のERでは、救急隊からの情報をきいて心の準備をしながら患者さんを待ちますが、ドクヘリで現場に向かっていくという緊張感の中で、なかなか空の旅は楽しめません。しかしながら、ドクヘリの研修で、患者を診るまでのスピード感を実感し、ドクヘリがあるおかげで、医師の早期治療介入、迅速な患者搬送ができ、救命率向上に繋がっていくことを実感することができました。

0 研修医



研修の特色

2020年4月より新しく緩和ケア科が設立し、多くの研修医の先生が研修されています。

臨床研修指定病院のうち、緩和ケア病棟があり本格的な緩和医療の研修ができる病院は新潟県内で2病院のみで、そのひとつが長岡赤十字病院です。患者さんの気持ちに寄り添いながら、がん性疼痛などの症状緩和や在宅療養への調整を行っています。年間約300人が入院される緩和ケア病棟は、病院の最上階にあり明るくて優しい雰囲気の病棟です。患者さん・ご家族のそれぞれの想いを大切にしながら、究極のオーダーメイド医療・ケアを提供しています。お誕生日会や七夕祭り・クリスマス会などのイベントでは、研修医の先生方が楽しそうに参加してくださり、笑顔あふれる和やかな研修となっています。皆さんと一緒に学べる日を楽しみにしています！



指導医からのメッセージ

『人に寄り添うとはどういうことか』その大切さを学ぶことができるのが緩和ケア科です。100人いれば100通りの患者・家族・医療の形があります。医療用麻薬をはじめとする鎮痛剤を使ってどのように痛みを穏やかにするのか、傾聴と対話によってどのように気持ちの辛さを和らげていくのか。今後のあなたの医師人生の中で、どの専門分野に進んでも必須となる緩和ケアの基礎知識・基礎技術を一緒に学んでみませんか？

緩和ケア研修記

緩和ケア科の研修で学べることは多岐に渡ります。

痛みのアセスメントやオピオイドも含めた鎮痛薬の選択、不眠時・せん妄時の対応といった医学的な面を学べることはもちろんですが、患者さんへの接し方からご家族のケアといった医療的な面もたくさん学べます。患者さんやそのご家族と腰を据えて対話をして、希望に添えるよう皆で検討しながら医療をすすめていきます。患者さんが笑顔になった時は、何ものにも代え難いやりがいを感じることができます。2週間の研修期間で悲しい場面にも遭遇しますが、緩和ケア科でしかできない経験をすることができました。

患者さんの苦痛を和らげ穏やかな日常を過ごせるようにサポートするという、医療の根幹ともいえる緩和ケア科で研修ができる施設は県内でも限られています。当院の初期研修で緩和ケア科を選択できる点は強みであり、緩和ケア研修で学ぶことは、今後の長い医師人生においての大きな財産になると思います。

T 研修医



研修医の声

1年目
O研修医



病院全体の雰囲気がとても良かったことが当院を研修病院として希望した理由です。また、研修医の2年間は、自分が将来専攻したい科を見据えつつ、様々な症例を学ぶ必要があると考えていたので、豊富な症例経験を積むことができ、プライマリケア全般を学ぶことができる点もとても魅力に感じました。実際の研修では、手技だけでなく治療方針などについても上級医の先生方からのフィードバックがありとても勉強になります。救急外来では軽症から重症まで、幅広く初期対応を経験できますし、ローテーション中の科の疾患であれば、担当医となり入院後の管理まで学べることができます。

是非、気軽に見学に来て当院の雰囲気や研修の様子を自分の目で確かめてみて下さい。

私は、実習や見学を通して、熱心に教えて下さる指導医の先生方や研修医室の雰囲気に魅力を感じ、当院を研修病院に選びました。初期研修の2年間は、幅広い科をローテーションして各科の先生方に直接ご指導頂ける、とても貴重な期間だと思います。当院には若手からベテランの先生まで、多くの指導医が在席されており、どの科でも充実した研修が出来ます。将来の専攻科が決まっていなくても決めかねていても、どちらにとっても魅力的な研修環境だと思います。

また医局とは独立した研修医室があり、同期や先輩方と学びを深めながら、毎日楽しい日々を過ごしています。

研修先で迷っている方は、ぜひ一度長岡赤十字病院に見学にきてみて下さい。

1年目
S研修医



2年目
A研修医



私が当院を研修病院として選んだ理由は、多くの患者さんと真摯に向き合える環境とそれを支えてくれる教育熱心な指導医の先生方が多くいると思ったからです。

当院は中越地区の中核病院であり、当直では軽症例から重症例まで幅広く診療を行うことができます。また指導医の先生方に多大なサポートを受けることができ、大変有意義な研修を受けることができます。

当院のもう一つの魅力は研修医同士で切磋琢磨する環境が整っていることです。

日々の病棟業務や当直で経験した様々な症例を、お互いに教え合うことで、日々学びを深めています。

どの科も大変有意義な研修ができるので、志望科を決めた人もまだ決めてない人にもおすすめです！

当院は中越地区の基幹病院であり、いずれの科でも熱心な指導医の先生のもと、豊富な症例を診ることができます。また当院は3次救急に対応可能な救命救急センターを併設しており、複数科の高度な加療が必要となる患者さんや重篤な状態にある患者さんの救急対応に携われることも当院の魅力の1つです。

2年目は自由選択期間が長く、志望する科と関連のある科で経験を積みたいと思う研修医や、志望科が決まっておらず自分に適した科を探したい研修医まで、それぞれのニーズに合わせた研修ができます。

また、今年度から新しくなった研修医室も魅力であり、アットホームな雰囲気は現研修医および学生の方々からも好評です。文章だけでは伝わらない魅力がまだまだありますので是非とも一度見学に来てください。研修医一同、楽しみに待っています。

2年目
F研修医



研修医の一年

4月

入社式・
オリエンテーション



5月

院友会旅行

6月

東部ブロック体育大会
病院まつり



7月

医学生向け就職説明会
(オンライン)

8月

長岡まつり／民謡流し



9月

大規模災害シミュレーション訓練
日本赤十字社新潟県支部救護員訓練
(9月・11月)

10月



11月

臨床研修症例発表会
大忘年会

12月

1月

中越臨床研修医研究会
(長岡市医師会主催)

2月

3月

研修医送別会・修了式



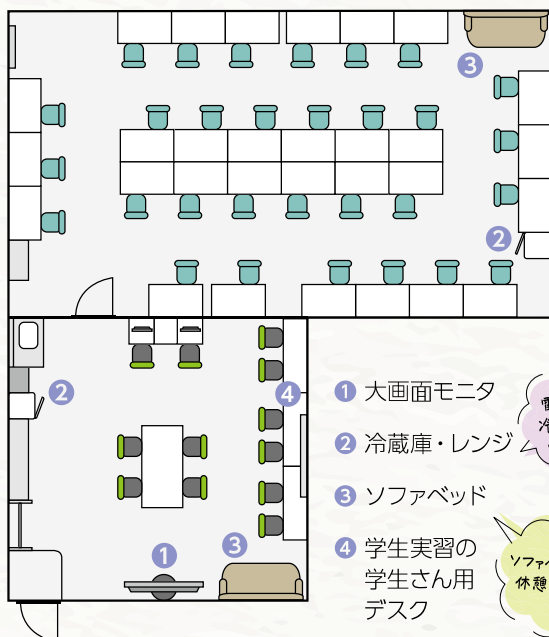
※行事については、新型コロナウイルスの状況によっては変更となる場合があります。

リニューアルした研修医室



研修医室

2022年4月にリニューアルした研修医室では、広いデスクを整備し、各人が落ち着いて勉強することができます。協力型病院からの研修医用のデスクもあり、快適な研修環境があります。



広いデスクが30席あり
協力型研修医も一緒に過ごすことができます。



談話室には、大型モニタがあり、検討会もできます。



電子カルテも整備してあります。



毎年学生実習で来られる学生の皆さんもここで勉強できます。

専門科紹介

循環器内科

現在、5名の循環器専門医で診療を行っています。主な疾患別分類では高血圧、冠動脈疾患、心筋症、心臓弁膜症、不整脈などで、時に重症な肺血栓塞栓症や心筋炎、また診療科目の多い総合病院のため他疾患に合併した興味深い循環器の症例（心サルコイドーシスやアミロイドーシスなど）を経験できます。

入院患者は年間延べ800名前後で、去年は心不全合併が610名、心筋梗塞が126名でした。心筋梗塞に対する緊急経皮的冠動脈形成術の活動成績も良好です。また心臓血管外科とタイアップし、外科的治療も行います。研修を通して、一般診療での循環器診療の基礎的診療法を少しでもマスターできるように応援したいと考えています。

呼吸器内科

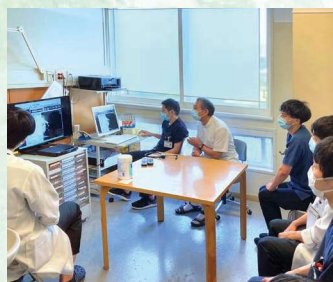
呼吸器内科は感染症科を含めた常勤スタッフ10名で診療しています。呼吸器内科の主要な分野である肺炎や胸膜炎・膿胸などの感染症、喘息やCOPDのような気道疾患、びまん性肺疾患、肺癌などの腫瘍、呼吸管理、救急疾患の研修が可能です。1年次の研修では日常遭遇する疾患を30例程度経験できます。みなさんと共に働ける事をスタッフ一同楽しみにしています。

消化器内科

当科は消化器病学会、消化器内視鏡学会、肝臓病学会の認定指導施設であり専門医および指導医が指導いたします。咽頭・食道から直腸に至る全消化管および肝胆膵といった実質臓器まで幅広く学べる診療科であり、出血性胃潰瘍、静脈瘤破裂などの消化管出血、腸閉塞、急性胆嚢炎や急性膵炎、さらに閉塞性黄疸などといった緊急処置を要する患者を多数経験できます。また内視鏡治療や進行癌の薬物療法等も数多く学べます。指導医・上級医のもと、緊急患者対応や入院患者を担当し、各種内視鏡検査・治療に参加し、技術的には上部消化管内視鏡検査などを習得してもらいます。週2回検討会や学会発表も積極的に行っております。みなさん当院で一緒に働きましょう。

血液内科

当院の血液内科は、中越地域全域の患者さんの様々な造血器疾患の診断と治療を行っています。入院患者さんは常時50名程度で、特に白血病やリンパ腫、骨髄腫といった造血器腫瘍に対する治療を中心に行っています。また、血縁者間移植、骨髄バンクからの非血縁者間移植、臍帯血移植などの同種造血幹細胞移植も含めた治療が可能な事が当院の特色です。血液疾患はわかりにくい、難しい、といったイメージもあるかもしれませんが、主に造血器悪性腫瘍に対する診断や多剤併用化学療法の経験を通して、白血病やリンパ腫といった造血器腫瘍のイメージを掴んでいただけたと思いますし、また造血幹細胞移植症例も経験することが可能です。ぜひ、当院での臨床研修を。



専門科紹介

内分泌・代謝内科

当院は中越地区の中核を担う総合病院ということもあり、当科では糖尿病、脂質異常症などの代謝疾患の他、クッシング症候群や原発性アルドステロン症、脳下垂体疾患、多発性内分泌腫瘍症といった比較的珍しい内分泌疾患の患者さんの診療にあたっています。研修医の先生には、主治医として担当患者さんの病態の把握および治療方針について主体的に検討して頂くようにしています。糖尿病の教育入院では、患者さんへの糖尿病教室や多職種の病棟カンファレンスに参加頂きます。

腎臓・膠原病内科

腎炎、腎不全、膠原病全般（関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、血管炎等）に関連して、多彩な症例を近隣病院より多数ご紹介いただいております。腎臓、透析、リウマチ学会の専門医を筆頭に、新潟大学腎膠原病内科からの出張医と研修医がチームで診療します。全身多臓器と関連する症例が多いため、それらを一例一例丁寧に診ていくことで内科全般に及ぶ臨床力を養うことができます。腎生検、各種血液浄化療法、緊急ブラッドアクセス用カテーテル挿入、内シャントや人工血管作成術など手技も多彩で、それらを交えながら薬物、輸液療法を駆使して全身管理を行っていきます。リウマチ分野では診断学の基礎を学びながら、抗サイトカイン療法含む最先端の治療も経験でき、高い専門性を持ちつつ全身管理のできる総合内科を感じて頂けると思います。

神経内科

神経内科専門医4人を含む6人のスタッフで、中越地区40万人の医療圏の神経内科診療の中核を担っています。年間の入院患者は、約500名で、脳血管障害だけでなくあらゆる神経疾患を経験することができます。1年目（4週間）の研修では、意識障害や麻痺の診かたなど、すべての研修医が知っておくべき神経所見のとり方を勉強してもらいます。2年目（自由選択）でローテートした時には、ファーストタッチで患者を診察して、神経疾患の診断のプロセスを学んでもらいます。週2回の検討会と総回診を通して、適確にプレゼンテーションする力を養います。学会発表や論文作成も、懇切丁寧に指導します。研修を通して、いま神経学がどのように進歩しているか、神経学の醍醐味を肌で感じるができるでしょう。

脳神経外科

当院は新潟県内では新潟大学病院と並びドクターヘリを擁する救命救急センターを併設している中越地区の中核病院です。その中で脳神経外科は各科と連携しながら緊急性の高い頭部外傷や超急性期脳卒中に対する治療を行っております。また、脳腫瘍や脳動脈瘤などの主要な脳神経外科疾患に加え、片側顔面けいれんやてんかんなどの機能脳神経外科についても新潟大学脳神経外科の基幹関連病院の一つとして対応しています。チームは若手2名を含む4名の医師で構成されており、研修医ともコミュニケーションがとりやすい環境で診療しております。神経救急や脳神経外科に興味のある方、将来臨床家として広い知識や経験を身につけたい方は是非当院脳神経外科で研修して下さい。きっと満足していただけると思います。

外科

初期研修の二年間で学んでいただきたいことは、次の2点です。まず、医師としてのベースとなる清潔・不潔の概念と、それに基づく行動方法を身につけてください。そして、チーム医療がどのように成立しているのか、理屈で理解してください。月曜から金曜まで毎日が手術日で、外来診療も経験してもらいます。精神的な負担も大きいと思いますが、ストレスに対する自分の反応を認識することはリーダーシップを学ぶことにもつながります。医学生にとっての外科のイメージは治療的側面が大きいのですが、我々の最重要課題は手術に至るまでの診断プロセスと患者さんのアセスメント、そして治療です。自分が日々学ぶ知識と技術が患者さんのためになるというダイナミズムを感じていただければ、研修修了です。

整形外科

当科は整形外科専門医6名と専門医研修中の医師3名、嘱託医1名で診療を行っています。三次救急を含む中越地区の拠点病院として当院の整形外科は各分野の専門医が常駐しており関節外科・脊椎外科・手外科等・外傷外科などほぼすべての整形外科領域の治療を網羅します。さらに、当院は三次救急を担うだけではなく一次・二次外傷も取り扱っており整形外科における初期治療から重度外傷まで幅広く経験することが可能です。そのため年間手術件数は約1,600件と県内でも有数の症例数を有し、多種多様な手術を経験することができます。

研修1年目は4週間の必須研修、2年目は選択研修となります。研修医の希望に合わせて初期治療から高度医療までニーズに応じた研修が可能です。

産科・婦人科

産科・婦人科ともに症例が多い施設であり、幅広い研修ができます。

産科は総合周産期母子センターとしてハイリスク妊婦を受け入れ周産期管理を行っています。正常の妊娠、分娩も多くの症例があります。研修医の先生には妊婦健診や切迫早産などの入院管理、経膈分娩や帝王切開、新生児診察などに参加していただけます。

婦人科は子宮筋腫、卵巣腫瘍などの良性疾患は積極的に腹腔鏡手術を行っています。またがん拠点病院として婦人科癌の手術、化学療法、緩和医療なども行っています。手術に参加するだけでなく、検討会などで手術適応の検討や治療の計画なども学ぶことができます。



専門科紹介

小児科

認定小児科指導医5名と小児科専門医5名を含む小児科医14名で指導にあたります。小児科病棟32床、NICU12床を含む新生児病床30床を併設し、コモンな疾患から3次救急に至るまで幅広い疾患が経験できます。1年目はERでの初期対応、乳幼児の診察、患者・家族とのコミュニケーション、基本的な手技習得等を目標とし、上級医がミニレクチャー、小児BLS・PALS（小児二次救命処置）・NCPR（新生児蘇生法）のミニ講習を実施します。研修の最後に経験症例の発表をしてもらいます。その症例を学会や論文で症例報告を行った先輩医師もいます。2年目は入院や外来、ERでの対応などより実践的でそのまま専攻医に繋がるような研修を行ってもらいます。少子化が進むわが国だからこそ心身健康な子どもを育てるため小児医療は必須です。是非楽しく研修を行いましょう。

救急科

長岡赤十字病院は中越医療圏で唯一の救命救急センターを有し、新潟県西部ドクターヘリの基地病院です。県内最多クラスの救急外来受診者数を誇り、約5,000台/年の救急車受入、約1,300件/年のドクターヘリ要請に対応し、県央・魚沼医療圏を含めた三次救急患者も広く受け入れています。救急科はほぼ全ての救急搬送患者の初療・診断を担当し、更に各科医師と連携してICU管理も担当します。特に重症敗血症、心停止後症候群、多発外傷、広範囲熱傷、薬物中毒などの重症患者さんは、救急科が主となり担当します。COVID-19の全身管理やRRS（急変予防対応）を運営する危機管理部門でもあります。

当院救命救急センターに来院される患者さんは軽症から重症まで幅広く、さまざまな病態・重症度があります。未診断の重症患者に対して初期診療・診断を担う救急医の責任は重いですが、非常にやりがいや喜びがある仕事です。内科救急・外傷・災害対応など各セミナー運営・開催にも携わり、当科独自の指導・教育を日々展開しています。

麻酔科

麻酔科は常勤医師6名と非常勤医師を含め、毎日7名で手術麻酔を担当しています。患者が安全に手術を受けられるようにすることが麻酔科の仕事です。手術内容や患者の全身状態、合併症などを考慮して、適切な麻酔方法を選択します。手術中の患者は、麻酔や手術侵襲によって呼吸・循環・水分バランス・体温などがダイナミックに変化していくので、それらをコントロールし、手術後の疼痛管理につなげていきます。当院では、心臓麻酔や小児麻酔、産科麻酔、緊急手術の麻酔など様々な麻酔を経験することができると思います。

病理診断部

病理診断部では、常勤病理医と細胞検査士の資格を有する臨床検査技師により、生検ならびに手術検体の組織標本作製・診断、細胞診標本の作製・判定・診断、病理解剖などを行っています。術中迅速診断は開庁日の日中は常に対応しており、病理解剖も終日受け付けています。病理診断補助として免疫染色やPCRによる遺伝子解析も行っています。必須研修は主にCPCレポートの作成ですが、希望があれば前述の業務を選択研修することができますので、興味のある人は積極的に申し出て下さい。

緩和ケア科

2020年4月より新しく緩和ケア科が設立し、多くの研修医の先生が研修されています。

臨床研修指定病院のうち、緩和ケア病棟があり本格的な緩和医療の研修ができる病院は新潟県内で2病院のみで、そのひとつが長岡赤十字病院です。患者さんの気持ちに寄り添いながら、がん性疼痛などの症状緩和や在宅療養への調整を行っています。年間約300人が入院される緩和ケア病棟は、病院の最上階にあり明るくて優しい雰囲気の病棟です。患者さん・ご家族のそれぞれの想いを大切にしながら、究極のオーダーメイド医療・ケアを提供しています。お誕生日会や七夕祭り・クリスマス会などのイベントでは、研修医の先生方が楽しそうに参加してくださり、笑顔あふれる和やかな研修となっています。皆さんと一緒に学べる日を楽しみにしています！

総合診療科

2022年8月現在、総合診療科には専従の医師1名、他科と兼任の医師3名が在籍し、外来・入院患者の診療を行っています。外来では紹介状の有無に関わらず、主に内科初診の外来として様々な主訴や病態の患者を診察しています。入院では診断が困難な症例、入院を要するものの各科に振り分けが難しい患者を主な対象とし、主治医としてまたコンサルタントとして診療を行っています。研修医の先生方には、問診や診察を通じて診断に至るまでのアプローチ、プレゼンテーションの技術などを特に学んでいただきたいと考えています。

小児外科

神様は赤ちゃんがみんなに大事にされるように、とっても可愛くお創りになりました。それでも、神様は時々小さな忘れ物をします。そんな小さな忘れ物を神様と赤ちゃんに届けるのが、私たちの仕事です。小児外科は、新潟県では新潟大学、新潟市民病院、県立中央病院と当院の4つしかありません。お互いに連携をとりながら、よりよい医療を目指して頑張っています。当院では、日常よくみる疾患（鼠径ヘルニア、虫垂炎など）から新生児疾患（食道閉鎖、腸閉鎖、鎖肛など）、胆道閉鎖など、小児外科全般にわたり治療に当たっており、個々の患者さんにあったオーダーメイド治療を目指しています。

呼吸器外科

現在、当科は呼吸器外科専門医2名と新潟大学第二外科（呼吸循環外科学分野）からの出張医1名の計3名体制で年間200例前後（うち120例前後が原発性肺癌症例）の手術を行っています。縦隔腫瘍や転移性肺腫瘍、気胸等も含め大部分は胸腔鏡下に手術を行っています。研修医の先生にも胸腔ドレーン挿入手技や手術執刀の機会を提供できるかと思います。将来外科系を志す方には呼吸器外科症例としての経験を、内科系を志す方には呼吸器内科や放射線科、病理部を含めた集学的治療としての外科治療の経験を提供していきたいと考えています。是非一緒に学んでいきましょう！



専門科紹介

心臓血管外科

心臓血管外科は、3人のスタッフで年間に心臓・大動脈手術約80例、末梢動脈手術約70例、静脈手術約40例を行っています。開心術の内容は、虚血性心疾患・弁膜疾患・先天性心疾患・大動脈疾患などで、いずれの分野でも最新の技術を取り入れて良好な結果を達成しています。主に後天性心疾患を鈴木が、先天性心疾患を菅原が、動脈疾患を平原が担当していますが、3人のスタッフは全員心臓血管外科の専門医の資格を有し、どの手術にも対応できる修練を積んでいます。近年、治療法が進歩して注目されている大動脈に対するステントグラフト治療や、末梢血管に対するカテーテル血管内治療も積極的に行っており、この領域では指導的立場で活躍しております。手術数としては多いとは言えませんが、難しい症例を1例1例丁寧に手術して治すという、大規模病院には失われつつある診療姿勢を学んでいただけたと思います。

泌尿器科

常勤で専門医・指導医の2名、新潟大学からの派遣医師2名の計4名体制で診療、指導しています。初期研修医は2年目からの受け入れが中心になります。悪性腫瘍(腎癌、膀胱癌、前立腺癌など)、感染症(腎盂腎炎などの尿路感染)、尿路結石症、排尿障害(前立腺肥大症、神経因性膀胱)、小児疾患(膀胱尿管逆流症、停留精巣など)、内分泌疾患(副腎腫瘍など)といった一般的な泌尿器疾患のほとんどを扱っています。外来診療では膀胱鏡やエコーなどの処置、入院診療では手術や周術期管理を中心に全般的に研修して頂きます。手術施行数は新潟県内トップクラスで、特にロボット支援手術を含む腹腔鏡手術を数多く施行しており、その点が当科の特徴と考えています。

皮膚科

皮膚科は2名の医師で診療を行っています。外来患者は1日50名ほどで、入院患者は4名前後です。一般的な湿疹や蜂窩織炎、粉瘤などの小手術をはじめ、悪性腫瘍の手術や化学療法、乾癬やアトピー性皮膚の生物学的製剤など、専門的な治療も行っています。また透析患者のフットケアや、抗がん剤治療の有害事象の治療、薬疹など、他科との連携も行っています。皮膚科でなくても、皮膚病変に遭遇する機会は多く、一度体験しておくのも、良い研修になるかと思えます。

形成外科

専門医1名、専攻医1名の計2名で診療を行っています。新潟大学形成外科を基幹施設とする専門研修プログラムの連携施設となっており、症例数も豊富です。形成外科は創傷外科、腫瘍外科、再建外科、先天性疾患を4本柱とする診療科です。当院は救命センターが併設されており、重症顔面外傷や熱傷などの症例も多く、NICUもあるため顔面や手足、体幹部(漏斗胸、臍ヘルニア)などの先天性疾患の治療も行っています。また、乳腺外科とも連携しマイクロサージャリーによる乳房再建手術も取り組んでいます。プライマリ・ケアで必要な創傷治療の基礎(皮膚縫合法、軟膏・創傷被覆材の選びかた、陰圧閉鎖療法、褥瘡、フット・ネイルケア、リンパ浮腫)と一緒に学びましょう。

眼科

眼科は常勤医師3名と非常勤医師2名で診療を行っています。研修する場合は午前中は病棟診察や外来診療、午後は主に手術となります。外来では細隙灯顕微鏡と倒像鏡を用いた基本的な診察手技の獲得と初診の問診・レーザー治療や外来ベッドでの処置の見学などを行います。週に1回、主に初診患者を対象とした検討会にも参加していただきます。

午後の手術は必ず助手に入ってもらいます。当科の年間手術件数は1,100件で白内障、緑内障、網膜硝子体、斜視手術から眼瞼下垂・眼窩底骨折などの外眼部手術といった幅広い手術を経験できます。研修期間によっては段階的に執刀してもらうことも検討します。

耳鼻咽喉科

現在3名の耳鼻咽喉科医が在籍し、年間手術件数は400～500件です。

耳鼻咽喉、頭頸部のほぼ全域を担当しています。鼓室形成術、鼓膜形成術、顔面神経減荷術などの耳手術、好酸球性副鼻腔炎や乳頭腫などに対する低侵襲的な鼻内内視鏡手術（ナビゲーションシステムあり）、睡眠時無呼吸、声帯ポリープや乳頭腫、音声、嚥下に関する咽喉頭手術、頭頸部は耳下腺、顎下腺、甲状腺を中心とした良性腫瘍、甲状腺悪性腫瘍手術など幅広く担当しています。また救急疾患も多く扱っており、上気道疾患、感染症疾患や外傷なども担当しています。将来耳鼻咽喉科医を目指す研修医だけでなく他科を目指す研修医にとっても十分研修を行うことができると考えます。

放射線科

放射線科は放射線診断専門医3名、治療専門医1名、専攻医1名の5名体制で、CT・MRI・RI・PET-CT・超音波・IVRや放射線治療を行っています。救急疾患も含め多彩な症例の画像診断のプロセスを研修することができ、超音波検査や血管造影を実際に経験できます。IVRでは、肝臓などの動注治療、外傷などの止血術、CVポート留置術など様々な手技があり、研修医の先生方も積極的に参加しています。研修を通じて、臨床医として必要な画像診断の知識が習得できると思われます。また、当院は地域がん診療連携拠点病院であり、多数の放射線治療症例があり、希望により治療科の研修もできます。

感染症科

当科では、感染症診療の全般を学んでもらう形を取っています。院内での血液培養陽性患者の確認を行い、症例の検討と的確な抗菌薬が使用されているかを検討していきます。また、チーム医療に関しても学ぶことができます。具体的にはICT（インфекションコントロールチーム）で院内感染対策を、AST（抗菌薬訂正使用支援チーム）で抗菌薬の適性使用に関して学ぶことができます。細菌検査室でも自由にグラム染色などを行うことができます。結核モデル病床もあり結核の診療も行っています。感染症科の所属は1名ですが、呼吸器内科医師との連携もあり、総合診療科で感染症専門医の児玉医師とも相談しながら診療を行っています。



初期研修後の進路

	進路	1期生 (6)	2期生 (5)	3期生 (8)	4期生 (5)	5期生 (4)	6期生 (8)	7期生 (7)	8期生 (8)	9期生 (8)	10期生 (8)	11期生 (8)	12期生 (10)	13期生 (10)	14期生 (9)	15期生 (11)	16期生 (11)	17期生 (11)	18期生 (11)	合計 (人)
新潟大学・県内病院	神経内科		2	2			1	2		1	2		2	2	2	1	1		1	19
	消化器内科	1						1	1				2	1	1	4	2	1		14
	小児科	1				1			2	2	1		1	1	1				2	12
	産婦人科	1		1		1	1		1			1		1		1		2	1	11
	外科			2					1	1	1				2		1	2	1	11
	呼吸器内科	1		1								1		2	1	1	1	2		10
	内分泌・代謝内科				1		1	1		1	1	2	1							8
	腎・膠原病内科						1	2		1	1						1			6
	血液内科		1								1	1				2	1			6
	心臓血管外科・呼吸器外科	1								1		1			1			2		6
	整形外科						1	1					1			1			2	6
	脳神経外科	1			1							1						1	1	5
	救急科						1							1			2		1	5
	麻酔科				1				1		1		1							4
	耳鼻・咽喉科								1			1		1						3
	放射線科		1	1			1													3
	循環器内科																	1	1	2
	皮膚科						1										1			2
	病理診断科												1		1					2
	眼科												1							1
県外病院	泌尿器科													1			1			2
	循環器内科		1																	1
	消化器内科			1																1
	皮膚科				1															1
	心臓血管外科				1															1
	呼吸内科								1											1
	小児科					1														1
	病理診断科									1										1
	脳神経外科															1				1

修了生からのメッセージ

多くの指導医の先生方、病院スタッフの皆様、研修医の先輩・同期・後輩に恵まれ、とても充実した2年間を過ごすことができました。

長岡赤十字病院を研修先として考えるようになったきっかけは、学生時代に4週間の臨床実習を当院で行ったことでした。病院全体が研修医を育てようとする雰囲気と研修医のみんなで頑張ろうという空気感があり魅了されました。

実際に働いてみると意欲的な研修医が多く、互いに切磋琢磨して研修を頑張りたいと思っている方々にはぴったりの病院です。

また、自由選択期間が非常に長いことも当院の魅力です。学生時代には志望科が決まっていなかった方が大多数であると思いますが、2年目には進路を決めなければなりません。2年目の長い自由選択期間でじっくり考えて進む科を決めた同期も多くいました。一生の選択になるので大事な期間だと思います。

当院での研修が修了するときには必ずここで研修できてよかったと思えるはずです！ぜひ当院に見学や実習に来てみてください！



呼吸器内科
H先生

長岡赤十字病院でさらなる飛躍を後期研修への道

初期研修を終えてからも、独自の後期研修のプログラムを用意しています。

後期研修プログラムは、内科後期研修と各科の後期研修の2種類があります。詳しくはホームページをご覧ください。

救急科

当院の救急科プログラムは、救急搬送患者の初期診療から継続して集中治療においても中心的役割を担い、適時に適切な臨床判断のできる救急医の養成を目指しております。ドクターヘリによる県全域の救命医療や、災害医療活動にも積極的に取り組んでおります。

内科

内科全般を幅広く研修することを基本にしますが、当院では内科専門分野研修を併行して内科全般を研修するプログラムも可能にしており、専攻医の皆さんの要望にお答えできる柔軟なプログラムにしております。救急から腫瘍に渡って症例数も多くかつ指導医も充実しております。

総合診療科

当院を含む総合診療専門研修Ⅱを研修する施設では、紹介状を持たない初診患者対応、不明熱など診断困難例などの入院対応、多領域に渡る問題点を持った他科入院患者のコンサルテーションや内科的管理、救急部と連携をしたER患者の診断など、病院総合医としての基礎を習得することができます。

病院からのメッセージ



長岡赤十字病院 院長
川嶋 禎之

現行の医師臨床研修制度がスタートしてほぼ20年が経過しました。発足当初臨床研修の基本三原則として、①医師としての人格の涵養②プライマリ・ケアへの理解を深め患者を全人的に診ることができる基本的な診療能力の修得③アルバイトせずに研修に専念できる環境の整備が掲げられました。その結果、市中病院を中心に原則③一定の経済基盤の元、原則②に基づき内科・外科に留まらず多くの診療科をオムニバスのように研修する仕組みが出来上がりました。

今は当たり前と感じられる「スーパーローテーション方式の臨床研修」(初期臨床研修義務化2004年～) やそもそも「医学部卒業時に国家試験を受けること」(インターン制度廃止～1968年) 自体も時代の要請や様々な先人たちの問題意識を踏まえて制度化されてきたものです。今後も医療技術の進化、社会変化に伴い求められる医師像とその養成の在り方は変化し続けていくことでしょう。しかし、基本原則①を満たすためには今も昔も「苦しんでいる人を助けたい! そのために自分は何をなすべきか?」という医療人にとっての根源的な問いかけを受け止めることのできる組織文化が重要であり、この点こそが長く研修医を育ててきた赤十字病院の強みではないかと考えています。

皆さんは将来、(高度) 専門医を目指す? 「かかりつけ医」=プライマリ・ケア医を目指す? 研究職を目指す? 行政職を目指す? 医療関連ベンチャー起業を目指す? 等々大きな夢がおありでしょう。当院は、皆さんが初期臨床研修1年目ではしっかりプライマリ・ケアを学び(ホップ)、2年目で専攻医研修へ向けた準備をし(ステップ) そして3年後は専門分野にむけてジャンプしていけるようお手伝いをすることで新潟県/世界に“良医”が増え続けることを願っています。



臨床研修管理委員長
竹内 学

当院は中越地区の基幹病院として様々な専門的医療を行うとともに三次救急病院として急性疾患に対する救急医療も担っており、初期研修としては理想的な環境であります。1年目は必須科として内科、神経内科、救急科、麻酔科、外科、整形外科、小児科、産婦人科、病理を学び、2年目はさらに4週間の救急科および地域医療、精神科を研修します。2年次の残り9か月間は将来を見据えて研修科は自由選択可能です。27科の専門科および100名を超える専門医が皆さんをお待ちしております。医師の第一歩として充実した初期研修を送ることは大切であり、指導医の数だけでなくモチベーションの高いスタッフが在籍しております。さらに当院の研修において自負できることは研修医室が活気に溢れていることであり、20名を超える研修医はみな「同志」としての自覚および信頼の関係が築かれています。指導医・上級医のみの教育ではなく、先輩研修医からの屋根瓦方式による指導や日々の悩みも気軽に相談できる楽しい環境です。多くの症例を経験でき、良い仲間や目標となる指導医に出会える当院の研修医になることを是非考えてみてください。きっと皆さんの思い描く医師像に役立つ2年間の研修になると思っています。

病院の概要

当院は常に新潟県赤十字医療活動の拠点として、また、長岡市を中心に中越地区80万人を診療圏にもつ基幹病院として、急性期医療を担っています。

■ 許可病床数 592床(一般病床:582床・感染10床)	■ 病床利用率 85.4%
■ 職員数 1,339人	■ 紹介率 74.6%
■ 医師数 178人	■ 逆紹介率 103.7%
■ 1日平均外来患者数 1,495.0人	■ 平均在院日数 11.0日
■ 1日平均入院患者数 469.4人	

令和4年4月1日現在

学会施設認定

浅大腿動脈ステントグラフト実施基準管理委員会認定施設	日本口腔腫瘍学会口腔がん専門医制度指定研修施設
日本静脈経腸栄養学会NST稼働認定施設	日本乳癌学会認定施設
呼吸器外科専門医合同委員会研修連携施設	日本高血圧学会認定施設
日本静脈経腸栄養学会実地修練認定教育施設	日本乳がん検診精度管理中央機構マンモグラフィ検診施設画像認定施設
日本IVR学会修練施設	日本呼吸器学会認定施設
日本神経学会教育施設	日本乳房オンコプラスティックサージャリー学会エキスパンダー・インプラント実施施設
日本医学放射線学会総合修練機関	日本呼吸器内視鏡学会認定施設
日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設	日本脳神経血管内治療学会研修施設
日本医療薬学会がん専門薬剤師研修施設(基幹)	日本産科婦人科学会専攻医指導施設
日本腎臓学会研修施設	日本脳卒中学会認定一次脳卒中センター
日本顎関節学会顎関節症専門医研修施設	日本産科婦人科学会専門研修連携施設
日本脾臓学会認定指導施設	日本脳卒中学会認定研修教育施設
日本眼科学会研修施設	日本産科婦人科内視鏡学会認定研修施設
日本ステントグラフト実施基準管理委員会(関連10学会)実施施設(胸部ステント)	日本泌尿器科学会教育施設
日本肝臓学会認定施設	日本周産期・新生児医学会 新生児暫定認定施設(基幹)
日本ステントグラフト実施基準管理委員会(関連10学会)実施施設(腹部ステント)	日本病院薬剤師会がん薬物療法認定薬剤師暫定研修施設
日本肝胆脾外科学会高度技能専門医修練施設(B)	日本周産期・新生児医学会 母体・胎児暫定認定施設(基幹)
日本整形外科学会研修施設	日本病理学会研修認定施設B
日本がん治療認定医機構研修施設	日本消化器外科学会修練施設
日本脊椎脊髄病学会脊椎脊髄外科専門医基幹研修施設	日本腹部救急医学会腹部救急医・教育医制度認定施設
日本緩和医療学会認定研修施設	日本消化器外科学会特定術式連携施設(腹腔鏡下肝切除術)
日本脊椎脊髄病学会椎間板酵素注入法実施可能施設	日本麻酔科学会認定病院
日本胸部外科学会、日本心臓血管外科学会、日本血管外科学会 基幹施設	日本消化器内視鏡学会指導施設
日本造血細胞移植学会移植認定施設	日本輸血細胞治療学会 I&A 認定施設
日本形成外科学会教育関連施設	日本消化器病学会認定施設
日本造血細胞移植学会採取認定施設	日本リウマチ学会教育施設
日本外科学会修練指定施設	日本小児科学会研修施設
日本大腸肛門病学会認定施設	日本臨床細胞学会認定施設
日本血液学会研修施設	日本小児外科学会教育関連施設A
日本透析医学会認定施設	日本臨床腫瘍学会研修施設
日本口腔科学会研修施設	日本小児口腔外科学会研修施設
日本糖尿病学会認定教育施設	成人白血病治療共同研究機構 JALSG 施設会員
日本口腔外科学会研修施設	小児循環器学会修練施設
日本内分泌学会認定教育施設	

施設の指定

保険医療機関、救急病院、臨床研修指定病院、臨床修練指定病院、救命救急センター、新潟県基幹災害拠点病院(地域を兼ねる)、移植医療の臓器提供施設、エイズ治療の拠点病院、総合周産期母子医療センター、地域がん診療連携拠点病院、がんゲノム医療連携病院、地域医療支援病院

見学・実習のご案内

随時お受入れをしております。

当院HP「初期臨床研修医 募集案内・病院見学について」下方の専用フォームより必要事項を記載のうえお申し込みください。申し込み内容を確認後、メールにてご連絡いたします。みなさまのお申し込みをお待ちしております。お気軽にお問い合わせください。



■ お問い合わせ先 教育研修推進室
TEL：0258-28-3600（代表） 内線：2218
E-mail：kensyu@nagaoka.jrc.or.jp

新潟大学6年次

臨床実習Ⅱ

新潟大学医学部の6年生の臨床実習の学生を受け入れております。

4週間の臨床実習を通して、研修医や上級医師の熱心な指導を受けながら、実際の患者さんについて深く勉強できます。病院見学以上に、当院を知るチャンスでもあります。定員に限りがありますが、ぜひ当院での実習にお越しください。

東邦大学5年次

地域医療実習

令和4年度から東邦大学に新潟県地域枠が新設されました。

東邦大学5年次の4週間の地域医療実習生を受け入れることとなりました。

2022年度の新潟大学の実習実績は以下の通りです。

2022年度の実習実績

内科系 (20名)	第1クール	呼吸器内科1名、腎・膠原病内科1名、小児科1名
	第2クール	消化器内科1名、血液内科1名、小児科2名
	第3クール	呼吸器内科1名、神経内科1名、小児科1名
	第4クール	消化器内科1名、呼吸器内科1名、腎・膠原病内科2名、神経内科1名、小児科2名
	第5クール	腎・膠原病内科1名
	第6クール	消化器内科1名、小児科1名
外科系 (9名)	第2クール	産婦人科1名、胸部外科1名
	第3クール	外科2名、胸部外科1名
	第4クール	産婦人科1名
	第5クール	産婦人科1名
	第6クール	外科1名、整形外科1名
その他 (8名)	第1クール	救急部2名
	第2クール	救急部2名
	第4クール	救急部1名
	第5クール	救急部2名
	第6クール	救急部1名

臨床研修実習生のメッセージ

私は呼吸器内科と救急科をそれぞれ3週間ずつ実習させていただきました。

呼吸器内科では私は3人の患者さんを担当し、先生方の丁寧なご指導の下診察やカルテの記載を行い、治療方針を一緒に考えていくなど、チームの一員として参加させていただきました。

救急科では研修医の先生方と一緒に救急車で搬送されてきた患者さんのファーストタッチをする中で、軽症から重症まで様々な疾患を経験することができました。主体的に患者さんの問診・診察を行った後に先生方からフィードバックをいただくことで、正しい救急対応を学ぶことができました。

どちらの診療科でも先生方が大変熱心に指導してくださり、教科書の勉強だけでは得られないより実践的な知識を得ることができました。振り返ると長岡赤十字病院での実習はとても充実しており本当にあっという間だったように感じます。病院全体の雰囲気も温かくこの病院で実習して良かったです。大変お世話になりましたこと、長岡赤十字病院で働かれる皆様にこの場を借りて感謝申し上げます。

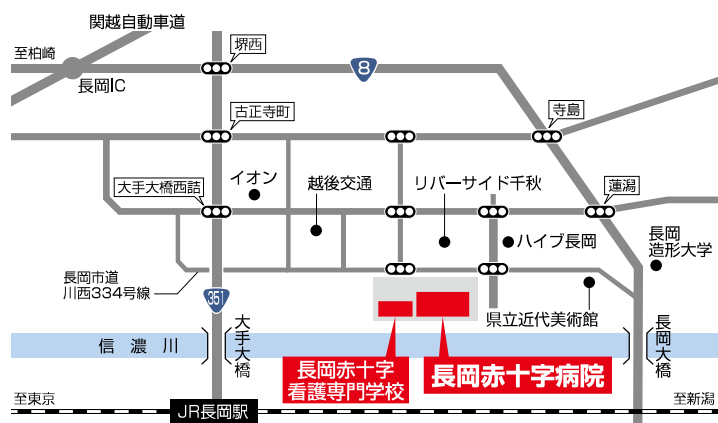
新潟大学6年 Mさん

募集概要

- 募集人員／12名
- 出願手続／①当院HPよりエントリー
②応募書類の送付（臨床研修申込書・小論文）
※詳細はHPをご確認ください。
 - ・採用試験：8月中旬 日程決定後、HPに掲載いたします。
 - ・選考内容：小論文・面接
 - ・応募締切：日程決定後、HPに掲載いたします。
- 書類送付先／〒940-2085 新潟県長岡市千秋2丁目297番地1
長岡赤十字病院 教育研修推進室

研修医の待遇

- 基本給／1年次 380,000円／月 2年次 460,000円／月
(時間外手当 1年次 約2,980円／時間 2年次 約3,607円／時間)
当直手当は下記参照
- 有給休暇／有給休暇16日(初年は15日)、夏期休暇5日
- 勤務／8:30～17:00
- 休日／土曜日、日曜日、祝祭日、5月1日(創立記念日)、年末年始(12月29日～1月3日)
- 住宅／月額補助あり(上限28,500円)
職員寮の場合、月額18,000～23,000円(+駐車場5,000円の自己負担)
- その他／各種社会保険完備 医師賠償責任保険施設加入
学会参加費等 年額150,000円まで補助
論文投稿 年額100,000円まで補助
- 1年次の日当直手当
 - <副直手当> 約15,000円(17:00～22:00)
 - <日直手当> 約30,000円(8:30～17:00)
 - <当直手当> 約30,000円(17:00～8:30)
- 2年次の日当直業務
 - <日直手当> 約30,000円(8:30～17:00)
 - <当直手当> 約35,000円(17:00～8:30)
 - <小児科副直手当> 約18,000円(17:00～22:00)
 - <産直手当> 約20,000円(17:00～8:30) + 実働時間



ACCESS

- 長岡駅より車で約10分
- 関越自動車道 長岡ICより車で約10分
- 長岡駅大手口2番線
長岡駅前＝大手大橋・日赤病院経由線
「日赤病院前」で下車



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

長岡赤十字病院

〒940-2085 新潟県長岡市千秋2丁目297番地1
TEL 0258-28-3600 FAX 0258-28-9000
<http://www.nagaoka.jrc.or.jp>